*　*　*　*

1976年7月4日，北海道の洞爺湖南岸にある有珠山（1977年8月7日の大噴火で有名）の外輪山でヒメハナワラビ属（*Botrychium*）のものと思われるシダ植物3株が発見された。同年8月6日，筆者は発見者の原松次教授の好意により，自生地を訪れ前回のものより小形の3株を発見し採集した。これらについて，植物の外部形態，共通柄内の芽の状態，および維管束の形態，胞子の形態等を観察した結果，このものはタカネハナワラビ *B. boreale* Milde であるとの結論に達した。タカネハナワラビは周極地方に広く分布し，日本近隣では千島列島のパラムシル島などから知られ，中井博士による朝鮮の白頭山が最も南であったが，今回北海道で，しかも比較的低地林床で発見された事実は，分布および生態学上から興味深いことである。なお筆者は今回，国立科学博物館所蔵の TNS. no. 251594 の朝鮮白頭山（長白山）産，TNS. no. 135332 の千島列島パラムシル島産，北海道大学農学部所蔵の千島列島シュムシュ島産（1934年，岸川敬太郎採集）およびウスティカムチャッツク，カムチヤッカ産（1920年，並河功採集）計4点の標本についても調べることができた。

□布施昌一：**シーボルトの日本探検**，この「人間の歴史」の風景．pp. 278，木耳社，東京 1977 XI，1,300円。近頃は NHK のテレビで「花神」が放映され，そこに傍系ながらシーボルトや'いね'などが登場しているので御存知の方も多かろう。筆者は，シーボルトを，将軍政治と天皇との関係を二重政体として，正しくみていた最初の外人であったとする立場でシーボルトを見直し「アジサイ *Otaksa* は恋の命名」「シーボルト来日以前の諸風景」「シーボルト来日直前の諸風景」「シーボルト来日時の風景」「シーボルト血の分かれの風景」「シーボルト自身の風景」の六章にわけて書きつづった。学名の記述などに若干の滞りもあるが，シーボルトを中心にした幕府後半の歴史としてみる時，種々の事を改めて学ぶ一つの書としてまた格好の書物といえよう。

（前川文夫）

□Stella Ross-Craig：**Drawings of British Plants**　31 parts and comprehensive index. 1948–1973. Bell & Son, London.　Ross-Craig 女史は，Kew の標本館にあって，1948年から1973年にわたり完行した1517枚の白黒の図版を逐次31の分冊としたものである。その内容については元の園長であった Sir Edward Salisbury が，正確さにおいて科学的であると同時に芸術的であると評された通り，全く立派な文献である。まことに25年もかかった労作で根気の賜である。その点わが岩崎灌園が15年かかって完結した本草図譜を思い出させるものがある。なにはともあれ近頃のインスタントものと異なる。尚，女史は他に良書があるのでカヤツリグサ科とイネ科は除外したと断っている。

（久内清孝）